グループホームりんごの木（認知症対応型共同生活介護事業所）

1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日　20　年　10　月　9　日

［評価実施概要］

事業所番号	18916000615
法人名	株式会社　EMORI
事業所名	グループホームりんごの木
所在地	福井県吉田郡永平寺町松岡松ヶ原1丁目308 (電話)　0776-61-6060

評価機関名	社会福祉法人　福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2-3-22		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成20年10月9日

［情報提供票より］　(　20 年　8 月　18 日　事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和 ・ ○平成　19　年　10　月　1　日			
ユニット数	2　ユニット	利用定員数計	18　人	
職員数	14　人	常勤　9 人、　非常勤　5 人、　常勤換算　10 人		

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り　造り
	2　階建ての　1　～　2　階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000　円		その他の経費(月額)	18,000　円
敷金	有　(　円)			○無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有　(　円) ○無		有りの場合 償却の有無	有　/　無
食材料費	朝食	200　円	昼食	500　円
	夕食	500　円	おやつ	0　円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要　(　20 月　8 日　現在)

利用者数	15　名	男性	1　名	女性	14　名
要介護1	5		要介護2	9	
要介護3	1		要介護4	0	
要介護5	0		要支援2	0	
年齢	平均　81,0　歳	最低	75　歳	最高	91　歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	福井大学付属病院・坂の下クリニック・中村歯科クリニック

［外部評価で確認されたこの事業所の特徴］

当ホームは九頭竜川の南岸沿い、永平寺町松岡地区（旧松岡町）と福井市とが接する田園地帯に位置し、周囲には近くにある大学の学生向けアパートや新興住宅が立っている。私鉄の駅やバス停も近く、遠方の家族が訪問しやすい立地条件にある。名前の由来であるりんごの木とナシの木が敷地内に植えられており、その果実を収穫することも入居者の楽しみになっている。建物は2階建てで入居者の状態に合わせた住み替えを行っており、活動的な方は2階で生活されているが、1階の入居者が介護度の軽減等で2階に移ってきても混乱が起きないように1・2階ユニットは同じ間取りの配置となっている。ケアの面では、きめ細かな対応で排尿の自立や服薬管理に取り組んでおり、状態の改善で介護度の軽減や自宅復帰につなげている。入居者と家族の関係を重視しており、入居後も疎遠になることを避けるため病院への受診には家族の同行を義務付けており、遠方から訪問する家族にはいつでも泊まれるように布団も用意している。近くの福井大学病院とも連携しており、救急医療体制は家族や入居者の安心につながっている。また、大学病院主催の地域連携会議にも出席して、地域の各種機関との情報交換を行っている。行政機関と調整し、隣接する市町からも入居者の受け入れが可能であり、ホームの立地条件を活かして、行政区を越えたサービスを展開している。

［重点項目への取組状況］

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価の受審となる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者兼管理者は、評価の意義を理解し、自らのサービスの質の向上に前向きに取り組んでいるが、一般職員は自己評価の作成の過程には関わっておらず、今後、外部評価の結果を踏まえて全体での改善につなげていく予定としている。次回の自己評価に当たっては、管理者・職員共に日頃のケアへの気づきや課題を見直す意味でも、協力しながら取り組まれることが望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は、町地域包括支援センター、町社会福祉協議会、民生委員、地元福祉施設、大学付属病院と多岐にわたる構成となっているが、都合がつかず開催には至っていない。入居者や家族、地区の代表等の身近な関係者の参加をまず得て、早急に開催に向けて取り組まれることが求められる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族とは個別に話しやすい雰囲気をつくる努力をしているが、あまり意見は出されてない。今後、家族会を設置するなど家族同士が交流する中で意見の出しやすい環境をつくり、ホームへの要望や苦情等を吸い上げて、運営に反映させていくことを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営者兼管理者は地域の理解を得るため、自治会に加入し、地区行事にも積極的に参加したり、地域の小学生との交流ができるよう働きかけているが、開設から間もないこともあり、まだ連携や協力を得られるまでには至っていない。今後も運営推進会議や行事への相互参加、散歩等の日頃の関わりを通じて地域に受け入れられるホームづくりに取り組むとともに認知症介護の専門機関としてノウハウを地域に還元できる機会づくりが期待される。

2．評　価　結　果　（詳細）

※ ■は、重点項目。

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
		Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「どんなに重い障害があっても普通の生活を保障すること」を基本理念としている。また、運営方針にも、尊厳の保持や地域の中で生活することを支援する内容が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者兼管理者は日々の介護に共にあたる中で、職員の行動や言葉かけについて気になった時は、その都度直してもらうように指導しており、職員へのヒアリングからも入居者と目線を同じくして、支援に当たっていることが確認できた。	○	介護にあたる職員の日々の拠り所となるように見やすい場所に掲示したり、パンフレットの中にも地域で暮らすことの意義や地域に対するホームの取り組み等を盛り込んだ内容があると分かりやすい。
		2　地域との支えあい			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者兼管理者は積極的に区長に働きかけ、自治会に加入して、地域の情報が得られるように取り組んでいる。自治会には加入しているが、地区からはゴミ置き場の掃除当番を免除してもらうなどの配慮を受けており、公民館祭りでは食券を購入して全員で参加するなど地域のイベントへの参加も図られている。		
		3　理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者兼管理者は開設間もないこともあり、今回の評価を自らの事業所運営の見直しとサービスの質の向上の機会と捉えられて、その意義を認識しているが、一般職員とは共有されておらず、自己評価の作成も協同作業とはなっていない。	○	今回の評価を活かし、一般職員とも話し合いの機会を持って、よりよい介護に向けて取り組むとともに、次回の自己評価に当たっては、管理者・職員共に日頃のケアへの気づきや課題を見直す意味でも、協力しながら取り組まれることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町地域包括支援センター、町社会福祉協議会、民生委員、地元福祉施設、大学付属病院と多岐にわたる構成となっているが、都合がつかず開催には至っていない。	○	参加者に認知症やグループホームを理解してもらう良い機会でもあるため、入居者や家族、地区の代表等の身近な関係者の参加をまず得て、早急に開催に向けて取り組まれることが求められる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の福祉課、地域包括支援センター等と日常的に情報交換をしており、隣接する市町からも入居者を受け入れて地域の高齢者介護の一翼を担う取り組みをしている。		
		4　理念を実践するための体制			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームに入所したことで家族が疎遠にならないように通院同行を家族にお願いして、月1度の家族の訪問につなげている。また、家族が訪問した時は介護記録に目を通してもらっており、書類にも定期的に家族のサインをもらっている。	○	入居者の普段の様子について、表情等を写真におさめて定期的に家族に知らせる「たより」等を発行する取り組みも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは個別に話しやすい雰囲気をつくる努力をしているが、好意的な意見や感想の他はあまり意見は出されてない。	○	今後、家族会を設置するなど家族同士が交流する中で意見の出しやすい環境をつくり、ホームへの要望や苦情等を吸い上げて、運営に反映させていくことを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者兼管理者は、馴染みの関係を重視しており、職員の異動は最小限に留めながら、夜勤時は職員が2ユニットをみるため入居者の混乱を防ぐ目的で年1～2名のユニット間の異動は予定されている。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5　人材の育成と支援			
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設時は他の施設を訪問したり、研修の機会を設けていたが、現在は限られた職員体制の中、運営者兼管理者が参加した研修を伝達することが主で、全職員の段階に応じた研修参加等の計画は立てられていない。	○	運営者兼管理者は、意欲的に各種研修や他施設との交流を図って、職員に還元するように取り組んでいるが、職員自身が参加する機会を持つことで、自分に必要な技術や知識を学んだりして、外部からの良い刺激を受けることも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者兼管理者は同業者との交流を積極的に行い、ホームでの介護や職員の指導に活かしているが、一般職員は開設時に交流の機会があったのみで、その後、職員レベルでの交流はなされていない。	○	一般職員レベルでも他の事業所との交流を持つことで、自らのケアの振り返りやサービスの質の向上、リフレッシュにもつながるため、今後、交流の機会を設けることが望まれる。
		Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人を交えて必ず訪問してもらい、納得してからの利用につなげている。また、入居間もない時期は、家族の面会を2週間毎にしてもらったり、不安定な入居者には個別に寄り添ってケアにあたっている。		
		2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者と一緒に生活をしているという関係で接しており、行儀や言葉遣い、物事に一生懸命に取り組む姿等から学ぶことが多いと認識している。また、訪問調査当日も職員と入居者が洗濯作業や食事の準備を笑顔で会話をしながら共に行っている姿が見られた。		
		Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	運営者兼管理者が入居時に本人や家族から情報を収集するほか、日常的な関わりの中で、入居者の表情や言葉、行動からその思いや意向を察して、穏やかな生活の支援をしている。		
		2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用に当たって、本人や家族、職員とケアマネジャーを交えて会議を持ち、本人の意向を踏まえて介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の暮らしを確認しながら3か月毎に計画の見直しがなされており、その他にも状態の変化に応じて随時見直しがなされている。		
		3　多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的な外出とは別に、遠方への外出や買い物等計画を立てて支援しており、ホーム内での生活にメリハリを持たせている。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医への受診を支援しており、家族へは受診時にホームでの状況をコピーして渡すとともに、受診結果で不明なことは家族も交えて聞き取りを行い家族の安心につなげている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた明確な方針はまだないが、利用に当たって、自立して歩けることを原則にしており、歩けなくなった場合は適切な施設を紹介するなどの対応を家族に説明している。	○	今後、事業所の理念も踏まえ、重度化した場合でも望まれる暮らしを支えていけるように方針の検討と医療面での連携を密にすることが望まれる。
		Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけは適切で、名前についても苗字で呼ぶことを基本としている。記録に関しては事務所内で管理されており、入居者や面会者の目に触れないように管理がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、掃除、入浴等の日課についても入居者のペースを尊重して、柔軟な対応がなされている。日々の活動は入居者が自由に過ごせるように支援しているが、貼り絵等で時に応じた職員の働きかけもみられる。		
		(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは入居者と共に行っており、食事も職員が一緒にテーブルを囲み同じ物を食べながら、食の進まない人へは声かけで促す様子がみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	通常は日課として入る日時が設定されているが、下着交換の前にシャワーをしたり、入居者の通院前に入浴するなどの柔軟な支援がなされている。		
		(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの敷地内の畑で季節の野菜を作ったり、プランターでの野菜作り等今までの生活歴を活かした活動の支援がなされている。活動的な入居者については、食事の準備等で不公平にならないように当番を決めるなど役割の調整をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い時期には常時、ホーム前の道路や近所の公園を散歩したり、買い物に出かけるなど、外出の機会を設けて支援している。		
		(4) 安心と安全を支える支援			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上職員の目が届かない部分にトイレと玄関があり、また、最近、無断で入居者が外出してしまうことがあったため、現在は日中も玄関を施錠している。	○	施錠が入居者にもたらす影響と家族や地域への印象等を踏まえ、入居者一人ひとりの傾向を見極めて対応することで、少しずつ施錠しない時間帯を増やしていくなどの取り組みが求められる。

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と年3回の避難訓練を実施している。夜間想定の訓練も行っており、通報・消火・避難の手順も職員は理解している。		
		(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成して、カロリーの管理もなされている。食事量、水分量の記録も残されており、職員は入居者の水分摂取に注意して、食事後もお茶を飲まなかった方への声かけ等をして水分補給を促している。		
		2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
29	81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1・2階は同じ間取りで、共有空間は機能的で移動や活動がしやすく、明るさ・採光共に適切で、入居者の習字等の作品が掲示されている。訪問調査時には、職員が持参したほおずきが活けられており、季節感が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に当たって、本人の使い慣れた物を持ち込んでもらうように働きかけており、タンスやソファー、鏡台、仏壇等これまでの入居者の生活家具を持ち込んで居心地良く過ごせるように支援している。		

グループホームりんごの木（2ユニット共通）

自　己　評　価　票

■は、外部評価との共通項目。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ノーマライゼーション（どんなに重い障害「認知症」があってもごく普通の生活を保障すること）を基本理念とする。 隔離するのではなく、地域に溶け込んで、自然な生活をおくる。	○	継続してこの理念でいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を目標に掲げ取り組んでいる。	○	継続して取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所時、家族には事業所としての理念を説明している。また地域では、自治会の会合などで、施設の概要や理念を説明している。	○	継続して取り組んでいきたい。
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会の話し合い等の場所として、気軽に当事業所を利用するよう声掛けをし、開放的な事業所を目指している。	○	継続して取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	本年度より、地区自治会に入会し、回覧板等による情報を得、地域のイベントに参加している。	○	当事業所のイベントにも参加していただき、交流を増やしたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行っていない。		
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価の結果を重視し、今後の事業所運営に取り組む。	○	入居者に対する職員の意識改革。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を尊重する。	○	運営推進会議の意見を尊重し取り入れ改善につなげたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	時々、永平寺町福祉課、包括支援センターを訪問し、情報の交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護や成年後見制度の講習を受けており、利用者からの要望があれば応じるようにしている。。	○	当事業所以外の方でも相談があれば、指導を行う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議の都度、虐待とはどのようなものなのかを説明し、注意をはらっている。	○	特に言葉による暴力が無いように徹底を図っていく。
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約の際には十分時間をかけ、相手が納得するまで説明を行っている。	○	今後も継続し、利用者や家族の不安を取り除き、安心して利用でいるよう努めたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政より委託を受けた、相談員2名が、月1回、来所し利用者からの相談業務を行っている。不満や苦情があれば、運営に反映させている。	○	継続して取り組む。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来所したおりには、必ずケース記録を見ていただいている。それにより、生活状態、健康状態等が報告されている。	○	継続して行っていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族より苦情や不満等聞くたび、改善につなげているが、言いやすい環境ではないと思われる。	○	運営推進会議のメンバーに、家族の代表も加え外部者へ機会を設け運営に反映させたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、全職員での会議を開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。	○	継続して行っていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望があれば応じるようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	慣れた職員、顔見知りの職員で安心した生活が出来るよう、職員の移動は最小限に抑えている。	○	継続して行っていく。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保し、職員の育成を行っている。	○	介護の質、向上のため計画的に研修を受ける機会を設ける。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士で交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	他同業者と職員間でも、交流する機会をもち、サービスの向上につとめる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休息室を設け、職員には必ず休息をとるよう指導している。連続で勤務日が5日以上ならないよう工夫している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者兼務であり、ほぼ毎日、現場で勤務している。職員の努力や実績、勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう努めている。		
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアマネージャーがケアプラン作成のアセスメントをかねて、本人から要望や不安なことを入所後すぐに、聞く機会を設けている。	○	よりよい個別ケアを実現するため継続したい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族には必ず事前に来所していただき、困り事の相談等を受けている。	○	継続する。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、自事業所利用を勧めるのではなく、まだ在宅での生活が出来ると判断した時は、他の在宅サービスを紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家族に対し、本人同伴での施設の見学を義務付け、他の入居者との交流の場を設けている。	○	入居時の不安を取り除くため、継続して行う。
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者には出来ることはしていただき、できないところをは援助するという方針で、共同で助け合いの生活をしている。	○	継続して行いたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所時、家族には2週間に1度は面会に来るよう指導し、来所時には、本人の心身の状況など、ケース記録等を通じ説明し信頼関係を構築している。	○	継続して行う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時、家族には最低2週間に1度は、面会に来るよう指導している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族のみでなく、気軽に近所や、友人にも面会に来ていただけるよう、職員は声掛けをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が共同作業の場を設け、利用者同士での交流を図り、孤立しないようにしている。	○	継続して行う。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、家族より相談があれば応じている。		
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、利用者個々から、希望や意向を聞き取り、できることはしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式で利用者の生活暦や、既往歴、趣味、好きな食べ物、好きなテレビ等、家族に記入を依頼し、把握に努めている。	○	これからも継続しサービス利用に役立てていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	画一的でなく、利用者一人ひとりが個性のある生活が送れるよう、現状を把握し職員は側面から支援することを心情としている。		
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所日に本人、家族、職員、ケアマネで、サービス利用会議を設け、本人、家族より意向を聞き、介護計画に取り入れている。	○	これからも継続し介護計画に利用する。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月間でのモニタリング時と、突然、状態に認められる変化が生じた場合はその都度、介護計画の変更を行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録、連絡ノートを利用し、情報の共有化を図っている。	○	継続して行う。
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム単独施設で実施していない。		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在、ボランティアで音楽活動、法話に地域の方の協力を得ている。また保育園にも協力をお願いしている。	○	もっと、多種多様の機関からの協力をお願いしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所時、ケアマネージャーより、以前の情報を得ている。また退所時も、ケマネージャーに報告し、退所後の支援を仰いでいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特にしていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時のかかりつけ医を主治医としているが、本人、家族の要望があれば、契約病院を紹介している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	契約病院が主治医である利用者は、利用時の状態を医師に報告し、治療の支援をしているが、その他の利用者はしていない。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	行っていない。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院直前のバイタルやケース記録等を情報として提供している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時、必ず家族から、終末期の意向を確認しているが、主治医との話し合いはしていない。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員には、今後、ありえると思われる、利用者の重度化や、ターミナルケアについて、話しはしてあるが具体的な準備はしていない。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所時は、退所後の相談員やケアマネに、家族構成、心身の状態、内服薬の種類、既往歴などフエイスシートで提供している。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃より、職員は言葉づかいには注意している。記録に関しては、利用者や面会者の目に触れないところに保管している。	○	継続して行っていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者に職員は理解できるような説明を行い、本人の判断を優先し、支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴時間以外は自由に過ごせるよう援助している。		
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族にお願いし、入所前利用していた所を利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の中に、食事の準備、後片付けを手伝いたいとの希望が多いため、交代制で、役割分担をきめ、職員と一緒に行っている。	○	利用者の意欲を引き出すため、今後も継続していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者、家族には飲酒、喫煙、嗜好品の持ち込み、可能なこと説明してある。現在、牛乳、コーヒーの希望者があり、提供している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツはずしを重点にし、職員全員で取り組んでいる。その結果、布パンツの利用者が増加している。	○	このまま継続し、利用者全員オムツがはづれるよう取り組む。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、決められた時間、曜日にしか入浴していない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就眠時間は自由にしている。昼寝を希望者する利用者には、その都度、対応している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望により役割分担をきめ、全員が解かるよう、表にして掲示している。娯楽として、歌や手芸を好まれる方には職員が支援している。	○	畑も確保してあり、今後、野菜作り等も取り入れていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金紛失のトラブルが多いため、利用者には持たせていない。家族より預かっているお金を、買い物のとき渡し、残りは回収し、管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候のよい時期には一日一回、必ず外に出るようにしており、近くの公園や、公共施設を利用している。一人ひとりのその日の希望にそってはしていない。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に買いたいものなどある場合は、職員と特別に外出することはあるが、その他は特別はことはしていない。ただし、家族との場合は、自由にいつでも外出、外泊を認め、出かける機会が多く見受けられる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話ができるよう、取り計らっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	朝8時から夜9時までを面会時間とし、各個室で他の人に遠慮しないですむよう配慮している。また、面会者からの要望があれば、無料で宿泊させている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、抑制について職員は理解しており、抑制はしていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び職員は理解している。居室には鍵を掛けたことは無いが、利用者が外に出て徘徊した例があり、最近玄関は鍵を掛けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を問わず、安否確認のため、利用者の部屋に入ったり、のぞくことが必要な場合、必ず声を掛けを行って行動している。	○	継続したい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、まとめて利用者の手の届かないところや、鍵のかかる棚などに保管している。その他の工夫はしていない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬に対して、二重、三重のチエックを行い、防止しているがその他は取り組んでいない。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時に備え、緊急通報場所、手順の確認は行っているが、その他は行っていない。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に対する通報設備、スプリンクラーは設置されており、この1年間に消防署立会いのもと、3回避難訓練、消火訓練を実施した。その他はおこなっていない。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族にはリスクについて具体的に例をあげ説明し、職員には抑制的な態度をとらず、のびのびと生活が出来るよう指導している。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチエック、便尿の量の確認を行い、入浴時、体の異常チエック、月1回の体重測定により、異常の早期発見に努めている。発見時は速やかに連絡帳や、ケース記録に記入し情報の共有を図り、家族にも連絡し対応している。	○	継続して行う。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員には処方箋書による副作用説明を理解させ、変化が生じた場合は家族に連絡し、受診するなど対応している。	○	継続して行う。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃より、繊維質の物を意識して摂取するよう努めている。また排便チエック表にて管理し、状況に応じて、受診したり、センナ茶を利用し排便コントロールを行っている。	○	継続して行う。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、全員、歯磨きを励行、入れ歯掃除も職員が付き添い確認している。	○	継続して行う。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成したレシピで、入居者、職員には水分の大切さを理解させ、水分補給を徹底させている。	○	継続して行う。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザについては、予防接種を義務付け、1日3回の食後、歯磨きと同時にうがいを励行している。また感染予防としてトイレ、洗面所等の手拭は、使い捨てのペーパータオルを使用している。入所時に感染症が無いか、情報の収集を行っている。	○	継続して行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、食器等は、手で洗った後、食洗機による、熱湯洗いを行っている。また週に1度は、抗菌剤での消毒も行っている。食材に関しては、その日の分を、その都度、業者より取り寄せている。余った食べ物については、その日に処分している。	○	継続して行う。
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先のフエンス扉を日中、開放している程度で特別何もしていない。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング等には、観葉植物や、その時期の草花の鉢植えを置いている。		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファー、畳の部屋、テーブルに椅子が設置され個々に自分の思いで、過ごせるよう、居場所の提供を行っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室には、ベッド、クローゼットが設置されているが、本人、家族の希望を取り入れ、使い慣れた，タンス、鏡台、ソファー等、自由に持ち込み、レイアウトしていただいている。	○	本人らしさを追及していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全個室、リビング、廊下等には換気器が設置され、２４時間作動している。またエアコンも同様に設置されており、状況に応じた対応がなされている。	○	本人らしさを追及していきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個室、トイレ、風呂場、リビング、ダイニングと全館バリアフリーで手すりがあり、エレベーターも設置されている。また、歩行の障害になるような物は置かないよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食事作り、掃除、洗濯が出来る利用者には職員が付き添い、力を活用し自立の向上に努めている。	○	個々の力を活用し、自立に向けたケアを行いたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの横に畑があり、利用者と職員で野菜作りに励んでいる。	○	外での活動に、利用者が活き活きしている様子が感じられる。今後も取り組んで生きたい。

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
	V　サービスの成果に関する項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○　①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○　①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）